

1965年3月

衛生動物第16卷第1号別刷

Reprinted from Japanese Journal of Sanitary Zoology

Vol. 16 No. 1, *March* 1965

蚊の胸部側板による分類学的研究

(続) タイ国産蚊亜科について¹⁾

Supplemental notes on the comparative studies on the pleural structure of mosquitoes collected in Thailand

栗原 毅²⁾

Takeshi Kurihara

蚊の成虫の種類を同定するには、色彩、斑紋、頭部付属器、羽などの特長を目標にするほか、とくに雄外部生殖器の構造が系統分類学上の特長を示すために重要な鑑別点となる。しかし医学上の見地からは吸血者である雌の標本の同定が大切であり、これには前記の特長ではしばしば判然としなかつたり系統学的な見地からの価値に乏しいことも多い。筆者はさきに胸部側板の構造による日本産蚊亜科の比較観察を行つて、これが系統分類上の重要な特長をしめすことを報告した(栗原 1963)。とくにこの観察法は、乾燥標本のまま標本を破損することなく、種属の特長を判定でき、雌雄とも利用できる点で実用上有利な方法と考える。筆者は、タイ国で数十種の蚊を採集する機会をえたが、この中から既知の特長によつて同定しえた種については、同様に胸部側板構造の比較観察をおこなつた。以下はその記載であるが、この結果日本産の蚊によつてわかつた属や亜属の特長がほぼ同じように認められ、種の識別にも応用できることがわかつた。本報告には、前報の種との重複を避けた 31 種を記載したが、これに用いた方法、用語などは、すべて前報に準じている。

この研究は、東京大学伝染病研究所佐々学教授の指導によりおこなわれた。標本の採集などについてタイ国医科大学熱帯医学部チャムロン・ハリナスタ教授はじめ職員の協力をえ、また、農技研服部伊楚子技官の標本提供を頂いた。感謝の意を表する。

1) This investigation was supported by a PHS research grant CC 00017 from Nihon Kiseichu Yobokai. (Report No. 52)

2) 東京大学伝染病研究所寄生虫研究部(主任 佐々学教授)

Department of Parasitology, Institute for Infectious Diseases, The University of Tokyo (Chief: Prof. Manabu Sasa).

なお本研究は、コロポ計画専門家としてタイ国に在任中に行われた。

胸部側板の形態

Tribe ANOPHELINI

Genus *Anopheles* Meigen, 1818

側板上の鱗片が少いか、または全くこれを欠き、側板上に 2-3 条の濃斑部をもつ種が多い。ppn, psp, l. mep の剛毛を欠き、apn が少しく前方に突出していることは日本産の本属の特長と同じである。

Anopheles hyrcanus nigerrimus Giles, 1900(図 1)

暗褐色の側板上に、ppn-psp-u.mep (上)、apn-ssp-stp-l.mep (中)、stp-mer (下) に 3 条の濃斑部をもつ。鱗片は少く、stp に 1-2 片をみるのみ。apn-b (6)、ppl-b (5)、ssp-b (3)、pra-b (6)、stp-b (上部 2、下部 6)、u. mep-b (6) をもつ。

(著者, Salaburi, ♀ 1)

Anopheles argyropus Swellengrebel, 1914(図 2)

側板は暗褐色、ppn-psp-stp-mep(上)、apn-ssp-stp-mep (中)、stp 下部(下)の 3 部分は、帯状に淡褐色を呈している。鱗片を欠き、剛毛も少い。apn-b(5)、sp-b(2)、pra-b(6)、stp-b(上部 4、下部 6)、u. mep-b(4) をもち、ppl-b は、この観察では認められない。

(著者, Salaburi, ♀ 1)

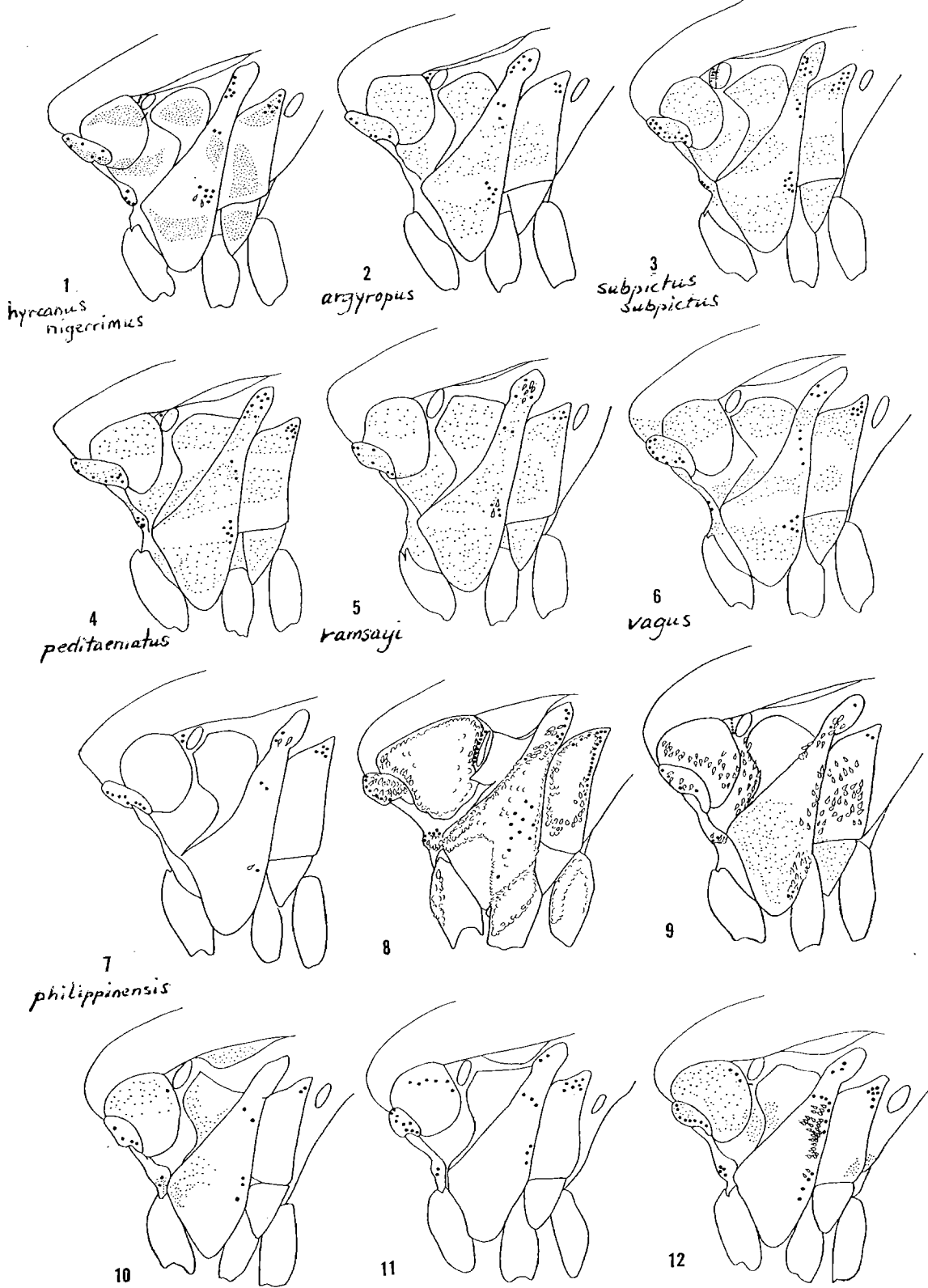
Anopheles subpictus subpictus Grassi, 1899 (図 3)

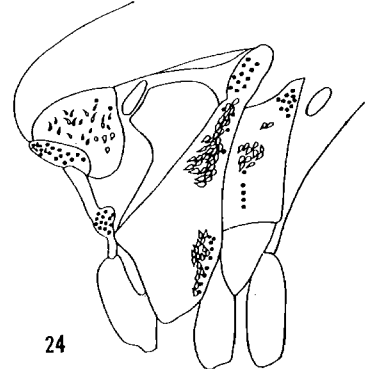
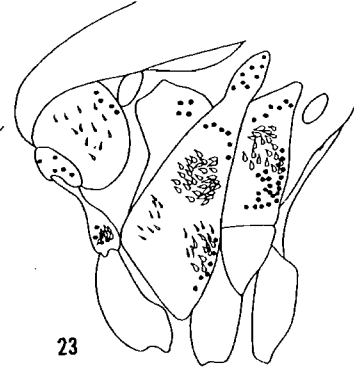
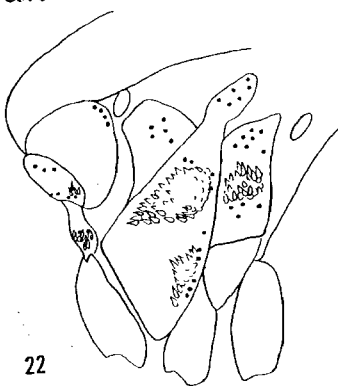
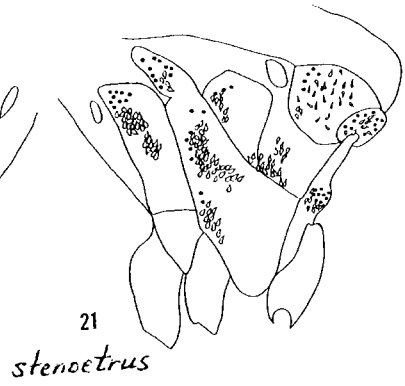
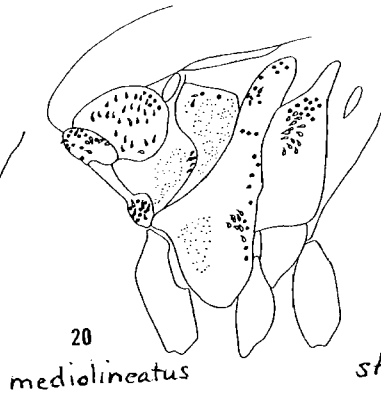
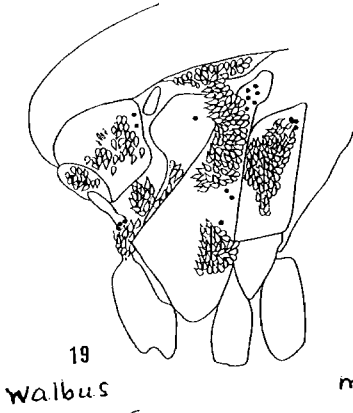
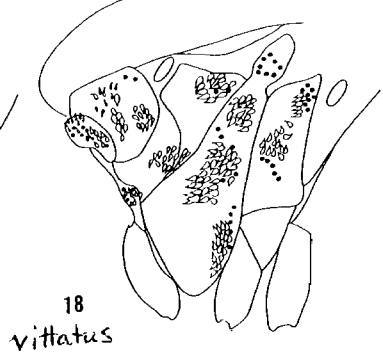
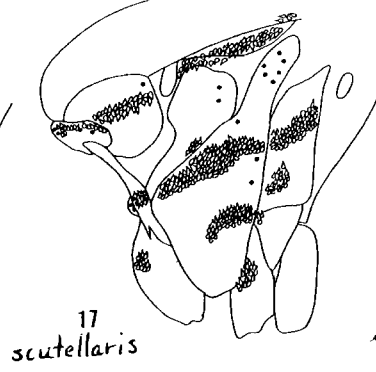
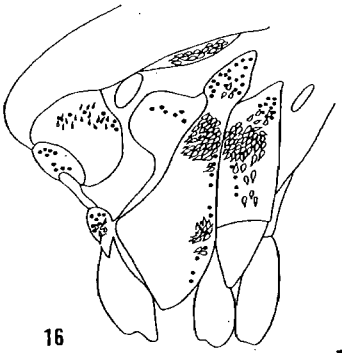
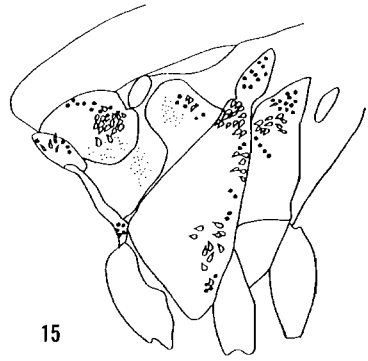
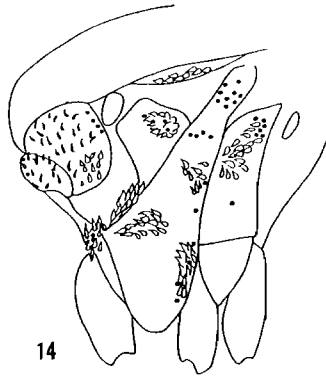
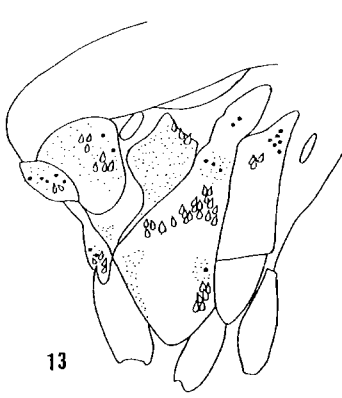
側板は褐色、3 条の暗斑部が ppn-psp-pra-mep, apn-ssp-stp-mep, ppl-mep. mer に走る。剛毛は淡褐色、apn pra, u. mep には密生し、このほか ppl-b (3)、sp-b (9)、stp-b(上部 4、下部 7)をもつ。

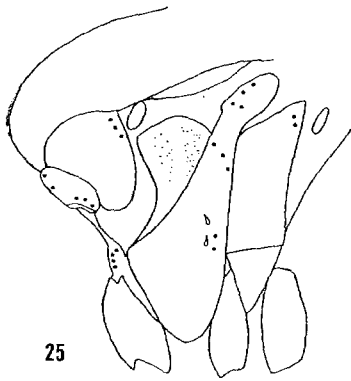
(著者, Salaburi, ♀ 1)

Anopheles peditaeniatus Leicester, 1908 (図 4)

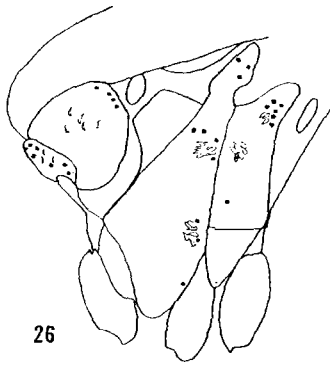
暗褐色の側板に 3 条の白帯が、ppn-psp-stp-mep(上)、apn-ppl-ssp-stp(中)、stp-mer(下)に鮮明に走っている。apn-b(8)、ppl-b(6)、sp-b(1)、stp-b (上部 3、下部 6)、u. mep-(8)と、密生する b pra-b をもつ。



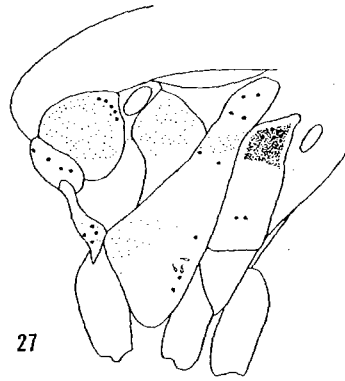




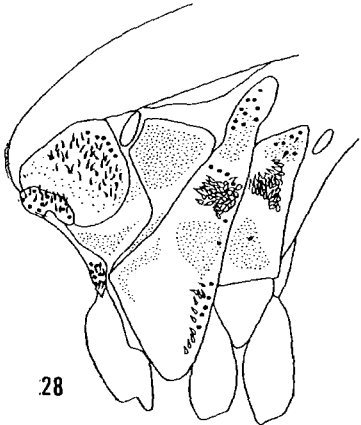
25



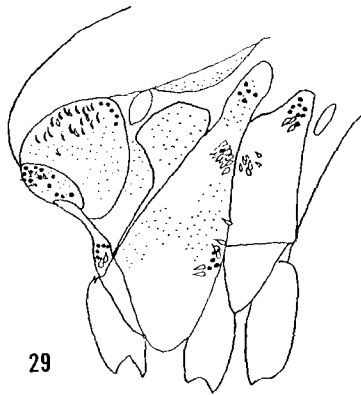
26



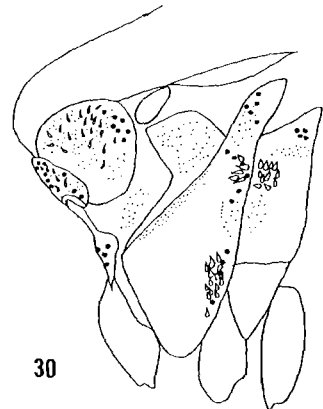
27



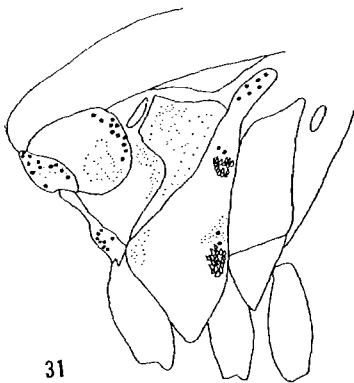
28



29



30



31

(著者, Salaburi, ♀ 1)

Anopheles ramsayi Covell, 1927 (図5)

黒褐色の側板に, 2条の白帯が, ppn-ppsp-stp-mep と, ppl-stp-mep に走っている。鱗片は pra と stp 下部に 2~3をみる。剛毛少く, apn-b (5~6), pra-b (4), stp-b (上部2, 下部3), u. mep-b (4) をもち, ppl-b, sp-b は認められなかつた。

(著者, Nomburi, ♀ 3)

Anopheles vagus Dontz, 1902 (図6)

側板は緑褐色, apn-ppn-ppsp-stp-mep, ppl-ssp-stp-mep, stp-mer と走る3条の濃褐色帯をもつ, apn-b(10), ppl-b(2), pra-b(4), stp-b (上部4, 下部5), u. mep-b (7) をもち, sp-b を認められない。

(著者, Bangkok, ♂ 1, ♀ 1)

Anopheles philippinensis Ludlow, 1902 (図7)

暗褐色の側板に, 白帯が上下に2条, stp から mep に走る(光線の方向により鮮明になる)。剛毛少く, apn-b(7), sp-b (2), pra-b (2), stp-b (上2, 下1), u. mep-b (5) をもち, ppl-b を認められない。

(著者, Bangkok, ♀ 1)

Tribe TOXORHINCHITINI

Genus *Toxorhinchites* Theobald, 1901

下記1種について観察した。これは, 邦産の *T. towadensis* に比して, 鱗片が密生し, stp は馬蹄形の鱗片斑をもち, sp-b が多数あるが, ppn-b を欠く, さらに apn, mep の剛毛の配置などに共通な特長をもっている。

Toxorhinchites splendens (Wiedmann, 1819) (図8)

黒褐色の側板は, 密に白色の鱗片で覆われている。とくに apn の鱗片は青白色の光沢をもつ。ssp, psp, ptg

には鱗片を欠いている。ppn, psp の剛毛を欠き、apn-b (6~7) は apn の前縁に、u. mep-b(17~18) は mep の後縁に沿って並ぶ。sp-b(6~7), l. mep-b(1) と、stp 中央部に散乱して位置する stp-b(8~11) をもつ。

(著者, Bangkok, ♀2, ♂1)

Tribe SEBATHINI

Genus *Tripteroides* Giles, 1904

邦産 *T. bambusa* と比べて、ppn-b, psp-b を欠き、第3脚基線が mer 上縁と同列に位置するなど の共通な特長をもっている。

Tripteroides aranoioides (Theobald, 1901) (図9)

側板は、stp 下部と mer が顕著な黒色を呈する他は褐色。鱗片は密集することなく、ppn, ssp, stp, mer に散在している。剛毛少く、apn-b(4), ppl-b(2), sp-b(5), pra-b(2), stp-b(下部にのみ2), u. mep-b(2) をもち、psp-b と l. mep-b を欠く。

(著者, Nomburi, ♀1)

Tribe CULICINI

Ficalbia, *Mansonia*, *Armigeres*, *Aedes*, *Culex* の5属について検討した。いずれも剛毛多く、ppn-b をもつが sp-b を欠いている。この族は、psp-b をもつ属 (*Aedes*, *Armigeres*, *Mansonia* 属の *Mansonioides* 亜属) とこれを欠く属 (*Culex*, *Ficalbia* と *Mansonia* 属の *Coquillettidia* 亜属も含まれる) とに区分できる。

Genus *Ficalbia* Theobald, 1901

剛毛が比較的少く、sp, psp, l. mep. の各剛毛を欠く側板の色は黄色または黄金色、暗斑もしくは黒斑をもつ種もある。鱗片は少い。

Ficalbia minima (Theobald, 1901) (図10)

側板は黄色、stp, ppl の一部と psp, ptg には暗褐色斑をもつ。鱗片を欠く、apn-b(3~4), ppn-b(1), ppl-b(2), stp-b(2~3), u. mep-b(2) をもち、sp, psp, l. mep の剛毛を欠く。

(著者, Bangkok, ♀1, ♂1)

Ficalbia chamberlaini (Ludlow, 1904) (図11)

側板は黄金色で褐色斑をみない。鱗片は全く欠くか1~2片をみるのみ。stp, pra, mep の各剛毛は白色セン細で、他の剛毛は紫色を呈する。apn-p(7~12), ppn-b(5~9), ppl-b(1~4), stp-b(6), pra-b(2~4), u. mep-b(5~7) をもち、sp-b, psp-b, l. mep-b を欠く。

(著者, Bangkok, ♂2)

Ficalbia hybrida (Leicester, 1905) (図12)

側板は黄色、ppn と ssp, psp の一部には褐色斑がみられる。stp 上部にのみ白色扁平鱗が集っている。apn-b(8), ppn-b(3), ppl-b(4) はいずれも黒紫色、stp-p

は上部の7本と下部の2本が黒紫色、他の下部2本は細く白色。この他に白色の剛毛 pra-b(3), u. mep-b(7) をもつ。

(著者, Bangkok, ♂1)

Ficalbia luzoensis (Ludlow, 1905) (図13)

apn, ppn, psp と stp の一部に黒褐色斑があり、他は黄色、特に psp は顕著な黒色を呈する。扁平鱗が apn, ppn, psp, ppl, stp, mep に散在しているが数は少い。剛毛も少なく、apn-b(6~7), ppn-b(2), ppl-b(2~3), stp-b(3~4), pra-b(2~4), u. mep-b(4~7) をもち、ssp-b, psp-b, l. mep-b を欠く。

(著者, Bangken, ♂3)

Genus *Armigeres* Theobald, 1901

A. subalbatus と同様に顕著な白色鱗片斑をもち、第3脚基線は mer 上縁より下方に位置する。

Armigeres (Armigeres) theobaldi Barraud, 1934 (図14)

側板は褐色、淡褐色の剛毛と、白色鱗片斑をもつ。apn, ppn には狭曲鱗が散在し、ppn 下部には扁平鱗をもつ。ppl, ssp, psp, stp, mep にはそれぞれ扁平鱗斑がある。apn-b(2), ppn-b(4), ppl-b(4), psp-b(4), stp-b(10), pra-b(9), u. mep-b(6), l. mep-b(1) をもち、第3脚基線は mer 上縁より下方に位置する。

(著者, Bang Pong ♀1)

Genus *Mansonia* Flanchard, 1901

Subgenus *Mansonioides* Theobald, 1907

sp-b を欠き、psp-b をもつ。l. mep-b は4~5本あり、1列に並ぶ。ppn, pra には剛毛が密生する。

Mansonia (Mansonioides) indiana Edwards, 1930 (図15)

側板は褐色、ppn, ssp, psp には濃褐色斑をもつ。apn に狭曲鱗、ppn, psp, stp, mep には白色扁平鱗をもつ。apn-b(3~7), ppn-b(3~11), ppl-b(5~6), psp-b(5~6), stp-b(10), pra-b(10~11), u. mep-b(12), l. mep-b(4~5) をもち、l. mep-b は mep の対角線上に並び、ほぼ中央に位置する。

(著者, Bangkok, ♀2, ♂1)

Mansonia (Mansonioides) annulifera (Theobald, 1901) (図16)

側板は褐色または黄緑色、鱗片多く、ppn には狭曲鱗が散在する。ppl, ptg, stp, mep には白色扁平鱗斑をもつ。apn-b(9), ppn-b(4~8), ppl-b(7), psp-b(4~6), pra-b(密生), stp-b(10), u. mep-b(12), l. mep-b(4) をもち、l. mep-b は長く白色で顕著。

(著者, Bangkok, ♂3)

Genus *Aedes* Meigen, 1818

側板は黒または褐色で、多数の鱗片をもつ、剛毛も多く、*psp-b* をもつが、*sp-b* は欠く。

Subgenus *Stegomyia* Theobald, 1901

側板は黒または暗褐色で、鮮明な白色鱗片斑、または白色鱗片帯をもつ。*ptg* に鱗片斑がみられ、*stp-b*、*pra-b* の数少く(6本以下)、*stp* には2つの鱗片斑がある(*A. vittatus* を除く)。

Aedes (Stegomyia) scutellaris (Walker, 1859) (図17)

側板は黒色、2条の鱗片帯がほぼ平行にならんでいゝ。上部のそれは、*apn* 上部から *ppn* 中央部—中胸気門をへて *ptg* にいたり、他は *ppl* から *stp* 中央部をへて *mep* にいたる。この他に、*stp* 下部と *mep* 下部をつらねる白帯が前脚に連り、上述の2条とほぼ平行に走っている。剛毛少く、*apn-b*(4)、*ppn-b*(1)、*ppl-b*(2)、*psp-b*(2)、*stp-b*(3)、*pra-b*(4)、*u. mep-b*(1)をもつ *mep* の鱗片は「く」型に並ぶが、その中央部は途切れている。

(著者, Nomburi, ♀1)

Aedes (Stegomyia) vittatus (Bigot, 1861) (図18)

側板は黒色、多くの白色鱗片斑をもつ。*apn*、*ppn* 上部には黒色鱗片もみられ、下部に白色扁平鱗がある。*psp*、*ssp*、*pra*、*mep* に各1。*stp* に3の鱗片斑をもち、*ptg* の鱗片斑を欠く。*apn-b*(7)、*ppn-b*(2)、*ppl-b*(5)、*psp-b*(2)、*stp-b*(10)、*pra-b*(7)、*u. mep-b*(8)と、さらに *l. mep-b*(5)をもっている。

(著者, Ranong, ♀2)

Aedes (Stegomyia) walbus Theobald, 1905 (図19)

黒色の側板上に鱗片斑多く、*apn*、*ppn*、*pra* から *psp*、*stp* の一部を密に覆っている。他に *ssp*、*ppl*、*stp* 下部、*mep* には白色扁平鱗がある。剛毛少く、*apn-b*(3)、*ppn-b*(2)、*ppl-b*(3)、*psp-b*(1)、*stp-b*(3)、*pra-b*(5)、*u. mep-b*(3)をもつ、(著者, Kanjanaburi, ♀1)

Subgenus *Aedimorphus* Theobald, 1903

褐色の側板に多くの白色鱗片が散在する。*apn*、*ppn* に狭曲鱗があり、他は扁平鱗である。剛毛数は多いが、*l. mep-b* を欠く、

Aedes (Aedimorphus) mediolineatus (Theobalds, 1901) (図20)

側板は褐色、*apn*、*ppn* には白色の狭曲鱗が、*ppl*、*stp*、*mep* には扁平鱗がみられるが少い。*apn-b*(12)、*ppn-b*(5)、*ppl-b*(10)、*psp-b*(2)、*stp-b*(14)、*pra-b*(10)、*u. mep-b*(12)があり、いずれも黄褐色または淡褐色を呈している。

(著者, Bangkok, ♀1)

Aedes (Aedimorphus) stenoetrus (Theobald, 1907)

(図21)

濃褐色の側板で、*ppn* 下部のみは淡褐色となつていゝ。*apn*、*ppn* に狭曲鱗と、ごく少数の細長い鱗片をもつ。*apn-b*(12)、*ppn-b*(5)、*ppl-b*(12)、*psp-b*(3)、*pra-b*(10)、*stp-b*(8)、*u. mep-b*(10)をもつ。*l. men-b* を欠く。(著者, Kanjanaburi, ♀1)

Subgenus *Aedes* Meigen, 1818

濃褐色側板に白色鱗片が多い。*ssp* と *pra* に鱗片を欠く点は、日本でえられた種と同じだが、今回供した2種は、いずれも多数の *l. mep-b* をもつ点、特異である。

Aedes (Aedes) vallistris Barraud, 1928 (図22)

暗褐色の側板で、*ppl*、*stp*、*mep* に多くの白色鱗片斑をもち、*apn*、*ppn* にはこれを欠く、*mep* には、*u. mep-b*(7)、*l. mep-b*(5)をもち、この他に *apn-b*(7)、*ppn-b*(4)、*ppl-b*(3~5)、*psp-b*(5)、*pra-b*(6)、*stp-b*(10)をもっている。

(著者, Chumphon, ♀2)

Aedes (Aedes) uncus (Theobald, 1901) (図23)

側板は褐色、特に *mep* 下部に多数の白色剛毛をもつ特長がある。鱗片は *ppn*、*stp*、*mep* にみられ、*mep*、*stp* には針状の淡褐色鱗片をもつ。他の鱗片は扁平鱗、淡褐色を呈している。白色の剛毛が、*apn-b*(5)、*ppn-b*(4)、*ppl-b*(5)、*psp-b*(4)、*pra-b*(9)をもち、*stp-b* は上方に褐色のもの(5)、下方に白色のもの(6)をもつ。*u. mep-b* は褐色(8)、*l. mep-b* は白色、20本以上散在する。(Dr. Pricha, Sulatani, ♀1)

Genus *Culex* Linnaeus, 1758

多くは褐色の側板をもち、剛毛が顕著である。しかし *sp-b*、*psp-b* を欠き、*l. mep-b* は亜属によりこれをもつものと、欠くものがある。鱗片は全くこれを欠く亜属、種もあるが、多くは顕著な鱗片斑をみうる。しかし、*ssp*、*ptg*、*psp* には鱗片がない。

Subgenus *Lutzia* Theobald, 1903

1種について観察した。4本以上の *l. mep-b* をもつ点は、日本産 *C. vorax* と同じである。

Culex (Lutzia) fuscus Wiedemann, 1820 (図24)

側板は褐色で、白色鱗片と、白色剛毛が多い。*apn-b*、*stp-b*、*ppl-b*、*pra-b* はいずれも密生している。この他に *ppn-b*(2)、*u. mep-b*(15)、*l. mep-b*(5)をもつ。*ppl* の鱗片は多くが狭曲鱗で、下部に扁平鱗をみられる。

(著者, Nomburi, ♀1, ♂1)

Subgenus *Lophoceraomyia* Theobald, 1905

Culex (Lophoceraomyia) minor Leicester, 1908 (図25)

褐色の側板で、鱗片を欠にか、*stp* に1~2の鱗片をみるのみ。暗褐色の剛毛が、*apn-b*(5)、*ppn-b*(3)、*ppl-b*(4~5)、*pra-b*(4)、*stp-b*(5)、*u. mep-b*(2)に

あり、特に u. mep-b が少数である点は、既報の本亜属のものと同じである。 psp 部分は僅かに濃褐色を呈する。(著者, Bangkok, ♀ 2)

Subgenus *Barraudium* Edwards, 1921

Culex (Barraudius) modestus Ficalbi, 1890(図 26)

側板の背面寄りの部分が少しく濃褐色を呈するので、他は褐色である。鱗片少く、apn, ppn に僅かの狭曲鱗, stp, mep に扁平鱗をみる。apn-b(7), ppl-b(4), stp-b(7), pra-b(3), u. mep-b(6), l. mep-b(1)をもつ。(服部伊楚子, Phanom, ♀ 1)

Subgenus *Culiciomyia* Theobald, 1907

鱗片はごく少数で、加えて褐色の側板に濃斑の帯状部をもつ点、邦産本亜属と同じである。l. mep をもつ。

Culex (Culiciomyia) nigropunctus Edwards, 1926 (図 27)

淡褐色の側板に2条の頭尾方向に走る濃褐色帯をもち、上部のそれは特に大形。とりわけ、その mep 部分のみは顕著な黒斑を呈する。鱗片は少なく、stp 下部に2~3みるのみ、剛毛も数少なく、apn-b(4), ppn-b(5), ppl-b(4), stp-b(5), pra-b(4), u. mep-b(6) l. mep-p(2)をもつ。u. mep-b は黒斑中にあり、白色剛毛であるため目立つ。また、2本の l. mep-b は横に並んでいる。(著者, Nomburi, ♀ 2)

Subgenus *Culex* Linnaeus, 1758

側板は淡褐色または褐色、3~4の白色鱗片斑をもち、apn, ppn には狭曲鱗が多い。側板中に濃褐色部をもつことが多い。

Group A に属する *C. sitiens*, *C. cornutus*, *C. gelidus* では l. mep-b を欠き、Group B の *C. fuscocephalus* はこれをもつ。

Culex (Culex) sitiens Wiedemann, 1828 (図 28)

側板は褐色、apn, ppn, psp, ssp は暗褐色を呈する。鱗片少なく、apn, ppn には金色の狭曲鱗、stp に2斑、mep に1斑の扁平鱗をもつ。apn-b(12), ppn-b(7), ppl-b(6), pra-b(8), stp-p(9), u. mep-b(4)をもつ。

(著者, Bangkok, ♀ 1)

Culex (Culex) cornutus Edwards, 1922 (図 29)

側板は褐色、apn, ppn, ssp, psp, ptg はやや濃褐色となる。apn, ppn には淡褐色の狭曲鱗が多く、ppn, mep には扁平鱗がみられる。apn-b(12), ppn-b(5), ppl-b(5), stp-b(5), pra-b(5), u. mep-b(8)をもつ。

(服部伊楚子, Phanom, ♀ 1)

Culex (Culex) gelidus Theobald, 1901 (図 30)

褐色側板に濃褐色部が散在する。鱗片少なく、stp の上、下部に各1つの扁平鱗をもつ。apn-b(12~15),

ppn-b(7~10), ppl-b(7~10), stp-b(4~7), pra-b(5~7), u. mep-b(6~7)をもち、l. mep-b を欠く。

(著者, Bangkok, ♀ 1, ♂ 1)

Culex (Culex) fuscocephalus Theobald, 1907(図 31)

側板上に濃斑部が多く、さらに apn 下部から ssp, psp をへて、stp, mer 上部の鱗片斑にいたる部分は淡褐色である。剛毛多く、apn, pra には密生している。この他、ppn-b(6), ppl-b(7), stp-b(10~12), u. mep-b(6), l. mep-b(1)をもつ。apn, ppn には狭曲鱗が多い。(著者, Bang pong, ♀ 2, ♂ 1)

なお以上31種の他にタイ国内にて下記の種を採集、観察しているが、これらは前報の記載とほぼ一致している。

Harpagomyia genurostris, *Mansonia uniformis*, *Armigeres subalbatus*, *Aedes aegypti*, *Aedes albopictus*, *Aedes vexans*, *Culex infantalis*, *Culex whitmorei*, *Culex bitaeniorhynchus*., *Culex tritaeniorhynchus*, *Culex pipiens fatigans*.

考 察

前報で58種の日本産蚊亜科成虫の胸部側板の形態を調査し、各属、亜属ごとの特長を記載したが、本報告ではタイ国産の31種により同様な比較観察を試みた。この結果、各種の構造よりそれが属する8属について、前報と大略同様な特長をもつことが確かめられた。これらの合計89種は、全蚊亜科のごく一部にすぎないが、これらの種を容する12属については、これを側板上の特長のみで鑑別することがほぼ可能である。ただこの中で *Culex*, *Ficalbia* の各属と、*Coquillettidia* 亜属(*Mansonia* 属)とはよく類似していて区分が難しい。*Aedes* と *Armigeres* の両属も良く類似しているが、第3脚のつけねの位置を比べることにより分けられる。*Culex nigropunctus* の mep の黒斑、*Lutzia* 亜属(*Culex*) の l. mep-b の数などのように著しい特長をもつものもあるが、一般には ppn-b, psp-b, sp-b などの有無が属の重要な鑑別点となっている。これらから各属の検索表を作ってみた。

1. { ppn-b を欠く—2
ppn-b をもつ—3
2. { 鱗片少いか、またはこれを欠く—*Anopheles*
鱗片多く、密に側板を覆う—*Toxorhynchites*
3. { psp-b をもつ—4
psp-b を欠く—6
4. { 第3脚基線は mer 上縁とほぼ同位置にある—*Armigeres*
第3脚基線は mer 上縁より下方に位置する—5

5. { ppn-b は後縁沿いに並び, l. mep-b を欠くこともある—*Aedes*
ppn-b は後縁沿いに並ばず, 数本の l. mep-b をもつ—*Mansonioides* 亜属 (*Mansonia*)
6. { 第3脚の基線と mer 上縁が同列に位置する—7
第3脚基線は mer 上縁より下方に位置する—8
7. { pra-b をもつ—*Tripteroides*
pra-b を欠く—*Harpagomyia*
8. { pra-b を欠く—*Orthopodomyia*
pra-b をもつ—9
9. { ppn-b, l. mep-b を各1本もつ—*Uranotaenia*
2本以上の ppn-b をもち, l. mep-b はないかまたはある—10
10. { sp-b をもつ—*Culiseta*
sp-b を欠く—11
11. { 鱗片少なく, psp, ssp が濃褐色を呈する—*Coquillettidia* 亜属 (*Mansonia*)
鱗片は多いかまたは欠く, psp, ssp のみが濃褐色を呈することはない—12
12. { l. mep-b を欠き, 小形の側板の色は黄色かまたは黒斑をもつものがある—*Ficalbia*
l. mep-b をもつかまたは欠く, 側板は褐色, 濃褐色斑をもつこともある—*Culex*

まとめ

タイ国産蚊亜科 31 種について, 胸部側板の構造を比較観察し, 各種・属の特長を抽出した。この結果, 先に報告した日本産 58 種と合わせた 89 種の属する 12 属について側板上の特長のみにてこれを識別しうる検索表を作ることができた。属の識別のためには, ppn-b, psp-b, sp-p などの有無や, 第3脚のつけねの位置が重要な区別点であるが, これらの観察は乾燥標本のまま容易に調査をすることができた。

引用文献

- 1) Barraud, P.J. (1934): The fauna of British In-

dia, Ceylon & Burma. Taylor & Francis. pp. 463, London. —2) Belkin, J.N. (1962): The mosquitoes of the South Pacific. Calif. Univ. Press. Calif. pp. 608. —3) Christophers, S. R. (1933): The fauna of British India, Ceylon & Burma. Taylor & Francis. London. pp. 371. —4) Crampton, G.C. (1925): A phylogenetic study of the thoracic sclerites of the nontipuloid nematocerous Diptera. Ann. Ent. Soc. Amer. 17: 49-74. —5) Edwards, F.W. (1921): A revision of the mosquitoes of the Palearctic region. Bull. Ent. Res. 12: 363-351. —6) Iyenger, M. O.T. & Menon, M. A. U. (1957): The mosquitoes of South Thailand. Bull. Ent. Res. 47: 785. —7) 栗原毅 (1963): 日本産蚊亜科の胸部側板による分類学的研究, 衛動, 14 (4): 191-207. —8) Thurman, E. B. (1959): A contribution to a revision of the Culicidae of Northern Thailand. Univ. Maryland. Bull. A-100.

Summary

Following the previous report on the comparative study of pleural structures of the thorax of adult mosquitoes in Japan, additional observations were made with 31 species of the mosquitoes collected from Thailand. It was also confirmed that the characters of pleural plates and attached bristles and scales were extremely useful in the taxonomy of the mosquitoes. Taxonomical key characters were described and illustrated for identification and classification of the species, subgenera, genera and tribes of the family Culicidae. The examination of pleural structures by the method reported here is recommended to be more widely used in the entomological surveys, since it is simple and easy to be practiced in the fields, and always reflects phylogenetically important characters.